

海のよごれは、みんなのよごれ 海洋ごみ問題を考えよう！

1

# 海洋ごみ問題 について知ろう

監修 中嶋亮太



教育画劇

# いま、世界の海が あぶない!?



ペットボトルや袋、カップなど、さまざまな形のプラスチックがちらばるシンガポールの海岸。こうした光景は、日本各地の海岸でも見られる。

浜辺にたくさんのごみが落ちています。よく見ると、ペットボトルや食べもののふくろなど、プラスチックのごみがとても多いですね。

これらは全部、人間が捨てたもの。海に来た人が置いていったものだけではなく、別の場所

から波に乗って、流れ着いたりしたのものもたくさんあります。

よごれているのは、浜辺だけではなく、海の中にはもっとたくさんのプラスチックがただよっていて、海をよごし、生き物に悪い

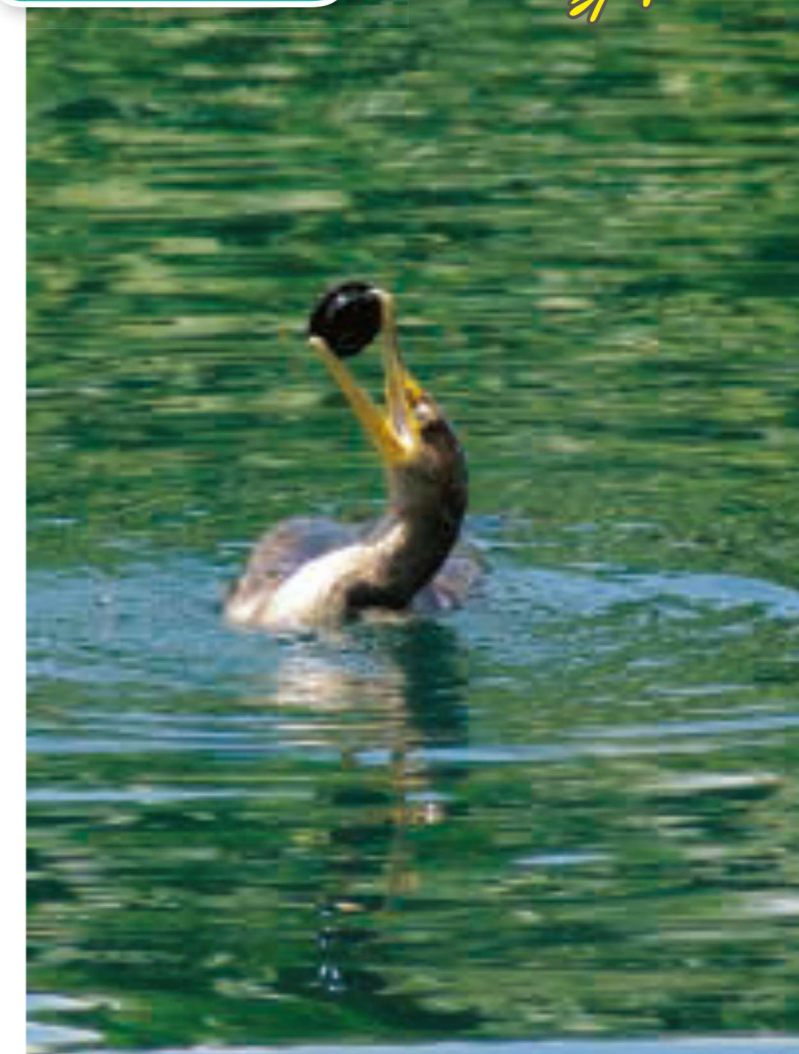
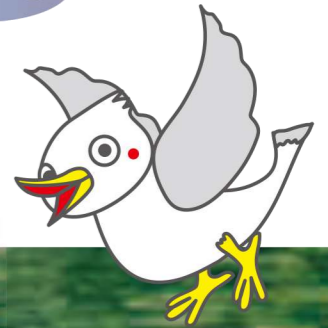
影響をおよぼしているのです。

これが、「海洋プラスチック問題」です。この問題をどう向きあえばよいのか、いっしょに考えてみましょう。

海のごみ、「海洋プラスチック」が世界中で大問題になっているんだよ！



食べないで！  
それはプラスチックだよ！



食べ物とまちがえてプラスチックを食べようとする海鳥。もし食べてしまったら、この鳥はどうなってしまうだろう。

# 海の生き物が 苦しんでいる

海に流れこんだプラスチックによって、おきている問題があります。写真を見て、考えてみましょう。



海に捨てられた漁業のあみからめとられてしまったハイイロアザラシ。



プラスチックの包装材が頭部にからまってしまった海鳥。食べ物を食べるのにも苦労しそう。

ぼくらの世界にはレジ袋なんてないからね。好物のクラゲとまちがえて、食べてしまうこともあるんだ。



## 海の生き物が傷ついている!



海岸に打ち上げられたクジラの死体のおなかの中から、大量のプラスチックが見つかった……なんていうこともあったんだ。

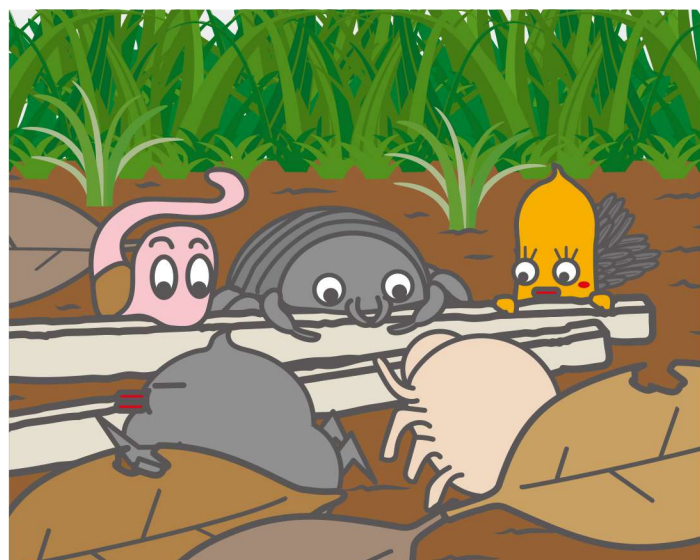
海には多くの生き物がくらしています。生き物たちは海中をただよぶプラスチックを見ても、それがごみなのか食べられるものなのか、区別がつかないことがあります。食べられると思ってのみこんでしまったプラスチック製品は、消化されません。排せつされなかった場合、プラスチックは体の中にどんどんたまっていきます。それが原因で死んでしまうことも、たくさんあるのです。

また、漁業で使うあみなどにからまって、身動きができなくなってしまうこともあります。プラスチックのあみはじょうぶで切れにくく、自力ではずすことができないのです。

レジ袋は、一見するとクラゲそっくり。

# いつまでも くさらず、消えない

便利だったプラスチック製品が、ごみになると、とてもこまったことが起こります。くわしく見てみましょう。



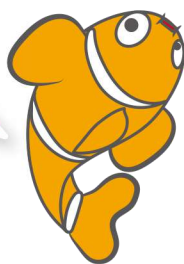
## 木や紙は、最終的に自然にかえる

ものを作る材料としての「木」について考えてみましょう。

家庭で使い終わったわりばしは燃えるごみに出すことが多いですね。それでは、たとえば森でピクニックをしていて、うっかりわりばしを落とし、そのままにしまったとしましょう。土の上に落ちたわりばしは、ほうっておくと水にぬれてくさっていき、やがてなくなります。

これは、木が「分解」されるからです。土の中にくらす微生物（目に見えないくらい小さな生き物）のはたらきによって木は分解されて、最終的に土にかえります。

木から作られている紙も、時間をかけて分解され、最終的には土にかえるよ。



プラスチックはいつまでも分解されず、たとえこわれても細くなるだけでなくならない。

## プラスチックごみは 1000年のこる!?

一方、プラスチック製のはしを森に落としたり、どうなるでしょうか。人工的にじょうぶに作られたプラスチックは、完全になくなるまで、数百年～1000年はかかるといわれています。

海と河川に流れこんだプラスチックごみも、ずっとなくなりません。1年に約2000万トンのプラスチックが海と河川に流れこんでいるので、このままでは海と河川の中のプラスチックが、毎年2000万トン近くふえつづけていくことになります。



タバコのフィルターもプラスチックと同様に、非常に分解されにくい。



私たちがペットボトルをほい捨てすると、そのプラスチックは、ずっと先の未来まで地球にのこりつづけるんだよ。



ペットボトルなどは特にじょうぶに作られているのでそうかんたんにばらばらにもならず、長い時間のこりつづけると考えられている。